

## 2 社会・地歴・公民科

### (1) 系統表について

#### ア 指導内容系統表の作成上の留意点

社会・地歴・公民科における系統表を作成する上での留意点については、次のとおりである。

#### (ア) 指導内容

指導内容については、校種ごとに学習指導要領の内容について記載する。

また、中教審の「これまでの審議のまとめ」(平成19年11月)には、「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力(中略)を育成する観点から、各学校段階の特質に応じて、習得すべき知識、概念の明確化を図る」ことが重要であると述べられている。そこで、学習指導要領の内容を基に習得すべき基礎的・基本的な知識について示すとともに、指導内容をいくつかの視点に分類して明らかにすることにした。指導内容をいくつかの視点(16ページの系統表では、日本の農業の特色、食料生産の課題と対策という視点)で分類することにより、社会的事象を多面的・多角的に把握することができ、習得すべき基礎的・基本的な知識の系統性を明確にすることができる。

#### (イ) 育てたい力

小・中・高連携を通して目指す力の一つである「自ら課題を見付け、よりよく解決する力」を育成するために、社会・地歴・公民科では、「課題を見付ける力」、「資料を活用し、表現する力」、「自ら考え、判断する力」を育てたい力として示すこととした。「課題を見付ける力」とは、まず課題意識をもち、その課題について自ら解決すべき課題としてとらえることができる力のことである。「資料を活用し、表現する力」とは、課題を解決するために様々な情報を収集・選択・活用し、社会的事象を分かりやすく表現する力のことである。「自ら考え、判断する力」とは、資料を基に社会的事象に関して意思決定する力である。これらの力をはぐくんできていくこと

によって、課題に対して、様々な情報を基に、自らの考えを表現するとともに、他の意見を聞きながら、最終的に自ら意思決定することができるようになり、よりよく課題を解決する力が育成される。

#### (ウ) 活用例

これまでに学んだことをどのように活用させたら授業の学習内容や日常の社会的事象への一層の理解を深めさせることができるかについて活用例を記載することにした。

これらを踏まえ、「食料生産と日本の農業」についてまとめたものが、16ページの系統表である。

		小学校	中学校	高等学校
指導内容	学習指導要領の内容	<p>各校種ごとの学習指導要領の内容と習得すべき基礎的・基本的な知識について記載する。</p> <p>各校種の基礎的・基本的な知識を示すことで、すべての校種に共通の基礎的・基本的な知識やその系統性が明らかになる</p>		
	育てたい基礎的・基本的な知識			
育てたい力	課題を見付ける力	<p>学習指導要領解説に示された具体的内容や国立教育政策研究所の評価規準の例を参考にして作成。評価規準との関連については次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を見付ける力 関心・意欲・態度</li> <li>・資料を活用し、表現する力 技能・表現</li> <li>・自ら考え、判断する力 思考・判断</li> </ul>		
	資料を活用し、表現する力			
	自ら考え、判断する力			
活用例				

図6 指導内容系統表の例

イ 指導内容系統表の具体例

単元 「食料生産と日本の農業」

		小 学 校	中 学 校	高 等 学 校
指 導 内 容	学習指導要領に示された内容	<p>・我が国の農業や水産業について、次のこと（「様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること」「我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など」「食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き」）を調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを考えるようにする。</p>	<p>・資源や産業から見た日本の地域的特色 世界的視野から見て、日本はエネルギー資源や鉱物資源には恵まれていない国であること、土地が高度に利用されていること、産業の盛んな国であることといった特色を理解させるとともに、国内では地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられること、環境やエネルギーに関する課題などを抱えていることを大観させる。</p>	<p>・世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習するのに適切な事例を幾つか取り上げ、世界の資源、産業を大観させる。 ・人口、食料問題を世界的視野から地域性を踏まえて追究し、それらは地球的課題であるとともに各地域によって現れ方が異なっていることをとらえさせ、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることなどについて考察させる。 ・各項目の中でできるだけ日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させること。</p>
	押さえておきたい学習すべき基礎的・基本的な知識	<p>日本 ・稲作のさかんな地域 <u>新潟や東北地方、北海道</u> ・庄内平野 ほとんどの土地に水田がつくられている。最上川や赤川、日光川などの川の水や雪解け水を利用。水田や用水路の開発。 ・六日町 高地のほとんどを田に利用。魚野川の水や雪解け水を米作りに利用。昼夜の気温の差が大きい。 ・品種改良、種もみ選び、栄養分のある土づくり、肥料の工夫、水管理(用水路の管理等)、<u>ビニールハウスを利用し</u>苗を育てる、耕地整理など。田の区画を大きくし、大型機械を共同で利用。 ・農協 カントリーエレベーターからトラックで消費地へ ・岩手県 夏でも涼しい気候を利用したレタスづくり、高知県 冬でも暖かい気候を生かして、<u>ビニールハウスを利用したピーマン</u>・きゅうりなどの野菜づくり。茨城県岩井市 レタスづくり。 ・山梨県 雨が少なく、昼と夜の気温の差が大きい気候を生かしたぶどうづくり。福島県保原町 ももづくり。 ・熊本県 あか牛とよばれる肉牛の放牧がさかん。北海道別海町 らく農がさかん。</p> <p>食料生産の課題と対策 ・<u>米の消費量の低下</u>や外国の米の輸入による米余り 米の生産調整(米以外のものをつくる転作) ・<u>食料の安全性</u> 地域の食材を積極的に利用。 ・<u>有機栽培の米づくり</u> 化学肥料や農薬の量を減らす(牛や豚のふんじょうを利用したたい肥づくりやあいがも農法など)。環境にやさしい無洗米を売り出す。 ・<u>食料自給率の低下</u> <u>外国産の食料品を多く輸入</u> ・耕地面積の減少 農業生産の減少、荒れる農地(環境問題) ・<u>農業で働く人の減少や高齢化</u> ・<u>世界人口の増加</u> 食料不足</p>	<p>・規模の小さい自作農が多い。 ・品種改良や肥料の使用、土地改良、機械化などにより、単位面積あたりの収穫量が多い。 ・土地利用～水田の割合が高い。 ・<u>稲作が平野部を中心に盛ん。(新潟や東北地方、大きな稲作地域、自主流通が多い)</u> ・米～国内自給率が高いが、消費量は減少傾向(ブランド米の誕生)。 ・減反政策や米の加工品の輸入増加による産地どうしの競争激化 農家の経営がきびしくなっている。 ・兼業農家が多い。 ・野菜や花、果樹の栽培、畜産なども盛ん。 ・<u>温室やビニールハウスを利用した施設園芸農業が発展。</u> ・野菜の主な産地～大都市周辺の近郊農業の地域、宮崎県や高知県などの促成栽培の地域、長野県(レタス)や岩手県などの抑制栽培の地域 端境期に出荷。 ・果樹栽培～りんごは東日本、みかんは西日本、ぶどうは中央高地に大きな産地。(熊本すいか、栃木 いちご、山形 さくらんぼ) ・北海道 大規模な畑作地域(じゃがいも、たまねぎ)、酪農が盛ん。 ・鹿児島県、宮崎県 養鶏・養豚が盛ん。</p> <p>農産物の食料自給率の低下(特に穀物自給率の低下) 農産物の貿易自由化等の影響 ・小麦やとうもろこし、大豆などをアメリカ等から多く輸入 食料自給の問題 ・安い輸入農産物に対し、日本の農家は高い品質と安全性を大切にすることで対抗。 ・<u>有機栽培などの環境保全型の農業を目指す。</u> ・産地直送グループの組織化(大都市の消費者に直接農作物を届ける) ・<u>農業人口の減少や高齢化</u> 後継者問題</p>	<p>・1995年に米の流通を自由化すると、外国産の安い米との競合も発生した。 ・日本の農業政策は、農家・農業を保護する政策から、大規模営農を支援する政策へと変化した。 ・<u>日本の農業就業人口は、長期にわたって減少傾向が続いている。</u> ・農業就業者一人あたりの生産額が、製造業の4分の1しかなく、重労働のわりに所得水準が低いため、若い人たを引きつけることができない。 ・<u>農業従事者の高齢化が進み、現在50%以上が65才以上で、その半数は女性によってささえられている。</u> ・食生活の多様化に伴って、米の消費が伸び悩んだため、政府は米の買入れ価格を抑え、作付け面積を制限する減反を奨励した。 ・<u>有機栽培の野菜の宅配、インターネットやパンフレットによって生産者が直接販売するので、消費者の安心感があり、人気をよんでいる。</u> ・日本の食料自給率は年々低下して、<u>穀物自給率は30%を割るまでにいたっており、いまでは世界最大の農産物輸入国となっている。</u> ・輸入先が特定の国に偏っており、それらの国の農業事情に影響を受けやすい食料需要構造になっている。 ・消費者の不安がつり、<u>食の安全への関心が高まってきている。</u></p>
育 っ て たい 力	課題を見付ける力	<p>・国民生活を支えている我が国の農業の様子や食料生産について課題意識をもつ。</p>	<p>・世界的視野から見た日本の農業の特色や課題、これからの日本の農業の在り方について課題意識をもつ。</p>	<p>・世界の農業との比較から、日本の農業の特徴と背景、抱える問題について課題意識をもつ。</p>
	資料を活用し表現する力	<p>・各種の基礎的資料を活用し、日本の農業の様子について調べることを通して、農業は、国民の食料を確保するという重要な役割や自然環境と深いかわりがあることについて分かりやすく表現できる。</p>	<p>・様々な資料を収集し、適切に選択・活用することで、日本の農業の特色や課題、これからの日本の農業の在り方について調べ、分かりやすく表現できる。</p>	<p>・様々な資料を収集し、適切に選択・活用することで、世界の農業の多様性や地域性を系統地理的にとらえ、分かりやすく表現できる。</p>
活 用 例	自ら考え、判断する力	<p>・国民生活を支えている我が国の農業は、国民の食料を確保するという重要な役割や自然環境と深いかわりがあることについて多面的に考えることができる。</p>	<p>・世界的視野から見た日本の農業の特色や課題、これからの日本の農業の在り方について多面的・多角的に考察できる。</p>	<p>・世界の農業の多様性を系統地理的に考察するとともに、世界の農業との比較から、日本の農業の特徴と背景、抱える問題について多面的・多角的に考察できる。</p>
	活用事例	<p>・すべて国産品が使われている「和食」をさがすことで、日本の食料の問題点について考えさせる。 ・食料自給率の低下による様々な問題点について、稲作農家の取組等の学習内容も想起させながら考えさせる。</p>	<p>・小学校やそれまでの学習で学んだ日本の農業の特色や課題を基に、食料自給率や食料の安全性を高めるための具体策について国内の視点のみでなく「世界の中の日本」の視点からも考察させる。</p>	<p>・最近の原油や小麦などの価格高騰の原因について世界の農業の変化や食料事情から考察させる。 ・世界の農業事情や日本の農業の課題等について学んだことを基に、日本の農業の今後の展望についてまとめさせる。</p>

~~~~~ 小・中・高いずれにも出てくる重要事項

(2) 指導内容の確実な定着と活用を図る学習指導の工夫

ア 小学校の実践例

- 1 主題名 「これからの食料生産とわたしたち」
- 2 本時の目標 (3 / 5)
  - (1) 各種資料を基に、一般的に「和食」とよばれる料理の多くは、その食材を輸入に頼っており、国内の食料自給率が年々低下していることを理解することができる。 (社会的事象についての知識・理解)
  - (2) 食料自給率の低下によって、どのような問題が起こるのかについて、資料やこれまでの学習を基に考えることができる。 (社会的な思考・判断)
- 3 指導に当たって (活用の工夫について)
  - ・ 日本の食料の問題点について、すべて国産品が使われている「和食」を児童に分類させることで、食料自給率が低下していることに気付かせるとともに、食料自給率の低下による様々な問題点について、「米作りのさかんな庄内平野」で学習した稲作農家の取組なども想起させながら考えさせる。
- 4 本時の展開

| 過程 | 主な学習活動                                                                                                                  | 時間形態      | 指導上の留意点<br>~工夫した点                                                                                                                                                                              | 資料等                         |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 導入 | 1 前時の学習を基にわたしたちの食事はどのように変化してきたかを想起する。                                                                                   | 5分<br>-斉  | 前時の学習を振り返ることで、本時の学習への意欲を喚起する。                                                                                                                                                                  | ・「和食」の条件                    |
|    | 2 本時の学習のめあてを確認する。<br>すべて国産品が使われている「和食」をさがすことで、日本の食料の問題点について考えよう。                                                        |           |                                                                                                                                                                                                |                             |
| 展開 | 3 いろいろな食事のメニューを前時で話し合った「和食」の定義に合わせて、分類する。<br>子どもが考えた「和食」の定義<br>昔から作られてきたもの<br>外国では見られないもの<br>国内でとれるもの                   | 5分<br>-斉  | 前時の学習において、子どもたちで話し合った定義を用いて分類することで、子どもの主体的な意識を喚起させる。<br>最初に定義 を用いて、一般的な「和食」のメニューに分類する。                                                                                                         | ・食事のメニューと主な食材               |
|    | 4 定義 に沿って資料を、和食とそうでないものに分類し、それを基に話し合う。<br>自給率100%の食材によるメニューを「和食」として、分類する。<br>「和食」...ごはん、大根おろしなど<br>「和食でないもの」...味噌汁、納豆など | 15分<br>-斉 | 「食料自給率」「輸入作物・輸入食品」について説明する。<br>これまでの「和食」の概念を食料自給率という側面から見直すことで、日本の食料生産が抱える課題に気付かせる。                                                                                                            | ・食品別食料自給率                   |
|    | 5 日本の食料自給率の変化について資料を基に話し合う。<br>昭和36年...78% 平成15年...40%                                                                  | 5分<br>-斉  | ここでは、本来国内ですべて生産されてきた食材で作られるものであった「和食」が、今ではほとんど輸入に頼っている現状に気付かせる。                                                                                                                                | ・食料自給率の年次変化                 |
|    | 6 自給率が低くなると、どんな問題が起こるか話し合う。<br>・ 食料確保の不安定化<br>・ 食物の安全性 (農薬等の問題) の保障<br>・ 世界的視野から見た食料不足への影響                              | 10分<br>-斉 | 国内の自給率が年々低下していることは、小・中・高で繰り返し出てくる指導内容であるので確実に理解させておく。【小・中・高共通の指導内容の確実な定着】<br>「米作りのさかんな庄内平野」で学習した農薬や化学肥料を減らす農家の取組について想起させる。【指導内容の活用】<br>中学校での指導内容である世界的視野から見た農業の問題についても気付かせる。<br>【中学校の指導内容との関連】 | ・農産物の農薬汚染<br>・各国の食料自給率の年次変化 |
| 終末 | 7 本時のまとめをするとともに、次時の学習について確認する。<br>日本は食料自給率が低いため、食料の確保が不安定になったり、安全性の問題がおこることもある。                                         | 5分<br>-斉  | 食料自給率が低下してきた理由について疑問をもたせ、次時の学習へとつなげるようにする。                                                                                                                                                     |                             |

イ 中学校の実践例

- 1 主題名 「我が国の食料とこれからの農業」
- 2 本時の目標（4 / 10）
  - (1) 我が国の農業や食料に関する統計資料等から，わが国の農業の問題点や食料自給率が世界の先進諸国に比べて極めて低いことを読み取ることができる。  
(資料活用の技能・表現)
  - (2) これからの我が国の農業のあり方について，高品質や安全性の確保の工夫などに取り組んでいることを理解することができる。  
(社会的事象についての知識・理解)
- 3 指導に当たって（活用の工夫について）
  - ・ 我が国の農業の問題点について，食料の中には外国から輸入しているものがあることや，主要な食料は外国からの輸入に依存していることについては小学校で学習している。小学校でのこれらの指導内容を想起させ，統計資料等から我が国の農業と食料の問題点について気付かせるとともに，その解決策について考察させる。
- 4 本時の展開

| 過程 | 主な学習活動                                                                                                                                                        | 時間形態              | 指導上の留意点<br>～工夫した点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 資料等                                                                               |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 前時の学習内容を確認する。                                                                                                                                               | 5分<br>-斉          | 基礎・基本テストにより前時の指導内容<br>を確実に定着させる（食料の生産地域）。<br>学習課題の設定のために実物資料を提示<br>し，関心を高める。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ・実物資料「大豆」<br>・大豆の自給率                                                              |
|    | 2 本時の学習課題を確認する。<br>日本の農業や食料をめぐる問題について<br>どのような解決策があるだろうか。                                                                                                     | 5分<br>-斉          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                   |
| 展開 | 3 日本の農業の問題について，統計資料を<br>読み取り，発表する。<br>・ 農業就業者の高齢化現象<br>・ 農業人口の減少と後継者育成<br>・ 輸入農産物との競合<br>・ 低い食料自給率                                                            | 10分<br>グループ<br>-斉 | 日本の農業に関する統計資料を提示し，<br>活用させる。<br>前時の学習内容である「米の生産をめぐ<br>る問題」も関連付けながら考察させる。<br>農業人口の減少を中心に考察させる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ・日本の農業就<br>業人口の推移<br>・種類別の農家<br>戸数の移り変わ<br>り                                      |
|    | 4 日本の食料自給率について，統計資料を<br>作成して，まとめる。<br>・ 日本における様々な食料の自給率<br>小麦14%，大豆3%，果実39%，肉類55%，<br>米95%<br>・ 世界の各国の食料自給率<br>オーストラリア230%，フランス130%，アメリカ119%，<br>ドイツ91%，日本40% | 10分<br>個          | おもな農産物の輸入先から日本の食料自<br>給率の低下について気付かせる。<br>国内の自給率が年々低下していることは，<br>小・中・高で繰り返し出てくる指導内容で<br>あるので確実に理解させておく。【小・中・<br>高共通の指導内容の確実な定着】<br>日本の食料自給率について，世界各国の<br>食料自給率との比較のグラフを作成するこ<br>とで把握させる。                                                                                                                                                                                                              | ・日本のおもな<br>農産物の輸入先<br>・タイ米と日本<br>米の生産者価格<br>・プリント資<br>料「日本の食料<br>の自給率を書き<br>込もう」  |
|    | 5 これからの日本の農業について，国内の<br>視点及び「世界の中の日本」の視点から考<br>え，発表する。<br>・ 付加価値の高い農作物の生産<br>・ 高品質や安全性をアピールする農作物<br>の生産<br>・ 消費者意識の改善<br>・ 地産地消の取組<br>・ 貿易や食のあり方の見直し          | 15分<br>グループ<br>-斉 | 小学校での学習を想起させながら，日本<br>は先進国の中で極めて食料自給率が低いこ<br>とをグラフから，読み取らせる。【小学校の<br>指導内容との関連】<br>日本の農業問題や食料問題を自分の問題<br>としてとらえさせる。<br>世界的視野から見たこれからの日本の農<br>業の課題について次の視点で考えさせる。<br>日本の農業が抱える国内的な課題であ<br>る「価格の安い外国産の農産物にどう対<br>抗するか」・「食料自給率をどう高めるか」<br>日本の農業が抱える国際的な課題とし<br>て，「外国から多くの食料を輸入している<br>貿易の現状をどのように変えていくか」<br>【高等学校の指導内容との関連】<br>小学校での学習や1年次の「鹿児島県の農<br>家の取組」の学習も想起させながら，これら<br>の課題について考察させる。【指導内容の活<br>用】 | ・日本の食料自<br>給率の推移<br>・和食メニュー<br>と洋食メニュー<br>のカロリー自給<br>率<br>・食料の安全性<br>に関する新聞記<br>事 |
| 終末 | 6 本時のまとめと次時の予告をする。<br>これからの日本の農業の在り方として，<br>地産地消の取組や高品質，安全性をアピ<br>ールする農作物の生産，貿易の在り方の工夫<br>などが考えられる。                                                           | 5分<br>-斉<br>個     | 次時は，世界的視野から見た日本の資源・<br>エネルギーの学習を行い，日本の地域的特<br>色を理解させる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                   |

ウ 高等学校の実践例

- 1 主題名「藤原氏の進出と政界の動揺」
- 2 本時の目標（3 / 5）
  - ・ 奈良時代における政治の特色について、藤原氏の外戚政策や権力争いを通して理解させる。  
(社会的事象についての知識・理解)
- 3 指導に当たって（活用の工夫について）
  - (1) 奈良時代について的小テストを事前に実施し、小・中学校で学んだ奈良時代の特色について生徒の実態を把握する。
  - (2) 小・中学校での奈良時代の学習を基に、藤原氏と天皇家の略系図を提示することで、姻戚関係について考察させ、藤原氏を中心とした奈良時代の政治の動向について理解させる。
- 4 本時の展開

| 過程 | 主な学習活動                                                                                                                                                                                                                                                             | 時間<br>形態       | 指導上の留意点<br>～工夫した点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 資料等                    |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 導入 | 1 小テストを行う。<br>2 学習課題を確認する。<br>奈良時代の政治はどのような特色があるか考えてみよう。                                                                                                                                                                                                           | 5分<br>一斉       | 小・中学校における奈良時代の政治に関する指導内容について小テストを実施し、確認を行う。【小・中学校の指導内容の確認】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                        |
| 展開 | 3 藤原氏と天皇の略系図の提示<br>・ 聖武天皇がどの天皇にあたるか確認する。<br>・ 略系図中のある人物とは誰か調べ、なぜ、皇室に対して娘を次々と入内させたのかを考え、発表する。<br>4 奈良時代の政権の推移<br>・ 不比等から長屋王(長屋王の変)三世一身法<br>・ 長屋王から藤原四子<br>・ 藤原四子から橘諸兄(藤原広嗣の乱)墾田永年私財法大仏造立の詔<br>・ 橘諸兄から藤原仲麻呂(橘奈良麻呂の変)<br>・ 藤原仲麻呂から道鏡(恵美押勝の乱)<br>・ 道鏡から藤原百川(宇佐八幡宮神託事件) | 40分<br>一斉<br>個 | 「藤原氏と天皇の略系図」を基に聖武天皇や藤原不比等の存在に気付かせ、皇室に娘を入内させることで権力拡大を図る藤原氏のねらいを想起させる。【中学校の指導内容の活用】<br><br>藤原氏の外戚でない長屋王は、自殺に追い込まれ、光明子の立后につながることに気付かせる。<br>藤原四子が相次いで病死し、藤原氏の勢力が一時後退したことを理解させる。<br>聖武天皇の時代は、橘諸兄の政権であることに気付かせ、聖武天皇と光明子の子の孝謙天皇の時代は、藤原仲麻呂が権勢を誇ったことを理解させる。<br>皇室と藤原氏の系図に全く関係のない道鏡の登場の背景について考察させる。<br>称徳天皇の死去にともない、道鏡は退けられ、藤原百川らによって天武天皇の皇統にかわって、天智天皇の孫である光仁天皇が即位したことを理解させる。<br>藤原氏と皇族が交互に政権を担当した理由を考察させる。 | ・教科書<br>・藤原氏と天皇の略系図    |
| 終末 | 5 政権の推移プリントを見ながら気付いたことを発表する。<br>6 本時のまとめと次時の予告<br>藤原氏が、外戚政策を通して政界に進出し権力を拡大していった。                                                                                                                                                                                   | 5分<br>一斉<br>個  | 奈良時代の政治の特色についてのまとめを発表させ、次時は、民衆と土地政策について学ぶことを知らせる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ・プリント<br>「政権の推移」教科書略系図 |

5 奈良時代の指導内容系統表から（一部）

|                                | 小学校                                                                       | 中学校                                                                                         | 高等学校                                                                                              |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 指導内容<br>学習の指<br>導内容<br>要領<br>に | ・大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起ったことが分かること。 | ・大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを、聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、摂関政治を通して理解させる。 | 古代国家の形成と東アジア<br>・我が国における国家の形成と律令体制の確立の過程、隋・唐など東アジア世界との交流に着目して、古代国家の展開と古墳文化、天平文化などの文化の特色について理解させる。 |

### (3) 成果と課題

#### ア 小学校の実践

##### 【成果】

食料自給率の低下による様々な問題点について、「和食」という視点から考えさせたことで、児童は意欲的に学習に取り組んだ。また、系統表に示された小・中・高共通の重要事項「食料自給率の低下」「食の安全性」などを基に授業設計に取り組んだことで、指導内容の確実な定着を図ることができた。

##### 【課題】

「米作りのさかんな庄内平野」で学習した稲作農家の取組を想起させながら、食料自給率の低下による問題点について「食の安全性」の視点からも考えさせたが、稲作農家の「食の安全性」に関する取組についての学習内容が定着していない児童もいたことから、それらの児童に対する個別の支援が必要である。

#### イ 中学校の実践

##### 【成果】

系統表に示された「世界的視野から見た日本の農業の特色や課題」について、世界各国の食料自給率との比較のグラフを生徒に作成させたことで、日本の農業問題や食料問題について理解させることができた。

##### 【課題】

提示資料が多くなると十分に考えさせる時間が少なくなるので、統計資料の一層の精選を図り、生徒の考えを更に深めさせる学習指導の工夫を行い、育てたい力の育成を図っていく必要がある。

#### ウ 高等学校の実践

##### 【成果】

小・中学校の指導内容を想起させながら、藤原氏と天皇家の略系図を提示することで、藤原氏が奈良時代から外戚政策を通して政界に進出し勢力を拡大していったことについて一層理解させることができた。

##### 【課題】

奈良時代の政治の特色について生徒自ら考えさせたり、まとめさせたりする工夫が一層必要である。

#### エ 小・中・高を通して

##### 【成果】

指導内容系統表を作成することで、小・中・高すべての校種に共通する指導内容を明らかにすることができた。そのことで、指導内容の系統性を踏まえた基礎的・基本的な知識の確実な定着を図る学習を展開することができた。

全校種の指導内容を系統表に示したことによって、前校種の指導内容の活用や次の校種を意識した授業の展開が行いやすくなった。

##### 【課題】

育てたい力を一層育成していくために、「諸資料を基に社会的事象の意味や特色を解釈したり、自分の考えを論述したりする学習指導」の在り方についての研究を更に進めていく必要がある。